

クローズアップ!知っておきたいビジネスキーワード：経営に役立つキーワードを解説(3)

監修：大阪経済大学中小企業・経営研究所

解説：杉田 武志（大阪経済大学情報社会学部教授）

今月のキーワード

棚卸資産回転期間：在庫管理を効率よく！

棚卸資産回転期間とは？

棚卸資産とは基本的に、会社が保有する商品、製品、仕掛品、原材料などの在庫を意味します。商品や製品は得意先(顧客)などに販売することで利益をもたらしてくれますが、売れ残ると利益どころか、原材料などの仕入(支払い)に充てるべき現金さえ回収できない可能性もあります。そこで、在庫の効率性、つまり在庫が、仕入からどれくらいの時間をかけて売上に変わったかを確認するために、財務分析の指標のひとつである「棚卸資産回転期間」が用いられます。

計算は簡単です

棚卸資産回転期間(日・月)は、財務省のシンクタンク・財務総合政策研究所公表の「法人企業統計調査」等にも計算方法が示されていますが、財務諸表、とくに貸借対照表上の「棚卸資産の金額」と損益計算書上の「売上高」に基づき算出します。具体的には棚卸資産(期首と期末の平均)の金額を、月商(売上高÷12カ月)で割ることで、何カ月分の売上高に相当する棚卸資産を保有しているのかが計算できます。つまり、商品・製品を製造するための原材料を仕入れてから製造工程を経て、完成品(小売であれば仕入商品)として販売されるまでの期間がわかります。ただし計算に際して、売上高ではなく売上原価を用いる場合もあります。

この値(期間)は短いほど、仕入れた商品や製造された製品などが早く販売される、つまり早く「はけた」ことを意味します。例えば、2カ月であれば平均して2カ月分の売上に相当する棚卸資産を抱えているとともに、仕入から2カ月程度で棚卸資産が1回転したことになります。ただし、こうした財務分析の値は、モノの流れを正確に表しているのではなく、あくまで数字から平均的な値を導き出しただけですのでご注意ください。

業種が異なれば、在庫額の多寡も異なります。なお、前述の法人企業統計調査(2021年度)では、全産業・全業種で1.06月という結果も示されています。つまり、平均すると約1カ月程度で、在庫が1回転していると考えられます。

在庫管理のために

自社の値を過年度、同業他社のものと比較することで、保有する在庫が多すぎないか、あるいは少なすぎないかという判断指標にもなるでしょう。また、資金繰りの観点から、

恒常的に多くの在庫を抱えすぎると効率的な在庫管理ができていない可能性もあり、逆に、在庫商品等が不足すると、売上収益の獲得機会を逃す場合もあるでしょう。

在庫管理のための一指標として棚卸資産回転期間を確認してみるのもよいかもしれません。